一般財団法人みらいこども財団

第12期 活動報告書
第13期 活動計画書

2025年9月～2026年8月末



資料の内容

01 活動理念・ビジョン

02 第12期 活動報告

03 第13期 活動計画（重点施策）

04 成長戦略

05 団体概要

06 私たちの強み

07 潜在力

08 児童養護施設の支援

09 最後に

いつもご支援ありがとうございます



ボランティアクルー一同

はじめに

2026年8月末をもちまして、みらいこども財団第12期の活動を無事に終えることができました。
また、第13期をむかえることができたのは、いつもご支援してくださる支援者のみなさまの後押しがあるからにほかなりません。
心より感謝申し上げます。
みらいこども財団の活動は引き続き、関東、関西はもとより地方の児童養護施設への訪問活動を行い、たくさんの子どもたちの支援を行うことができました。
しかし、イラン戦争やアメリカの関税問題など不透明な世界情勢の影響を受けて寄付金実績は設立以来初めて昨年実績を確保することができませんでした。
しかし、課題を解決するべく本部スタッフ、ボランティアクルー一同力を合わせて努力し、13期においても一人でも多くの子どもたちの支援を行ってまいります。
引き続きご支援をよろしくお願いいたします。



代表理事　谷山昌栄

みらいこども財団　　活動理念

01　貧困と機会差別をなくす

02　誰もが優しくなれる機会を創造する

03　一人ひとりの５％をシェアするしくみをつくる

04　かかわるすべての人が活動を通じて幸せな人生をおくる

社会課題解決のプラットフォームを目指して

全国の児童養護施設へ年間約1000回のボランティア活動を行い、年2回施設へのアンケートによる情報を収集しています。
児童養護施設とのネットワークを構築することで、誰もがボランティアに参加することができるプラットフォームをつくり、多くの人が社会課題を解決することのできる社会を目指しています。



2035年に目指す姿



全国約600すべての児童養護施設と施設に暮らす子ども2万2千人の支援

施設を卒園した若者が独り立ちできるような継続的な伴走支援

ボランティアクルー10万人

パートナー企業500社

2028年に目指す姿



全国6か所にみらいこども財団の活動拠点を設置

訪問・オンライン支援先施設100か所

ボランティアクルー　1000人

パートナー企業　100社

第12期 活動報告



数字で見る第12期の活動



890回

施設訪問数
（1年間）



211名

ボランティア
在籍人数



183名

オンライン里親
在籍人数



6800名

関わった子どもの
延べ人数



345施設

支援先施設数
（寄付を含む）

施設ボランティア支援体制の変化

項目	第11期	第12期
支援先施設（ボランティア）	31施設	36施設
支援先施設（寄付）	288施設	484施設
卒園後の子ども（累計）	47名	67名
ボランティア人数	212名	211名
オンライン里親人数	253名(累計）	183名（支援中）

※今年度より里親人数は累計ではなく実活動者数に変更

支援先児童養護施設数の推移・毎月訪問（ただいま含む）

年	訪問先	オンライン交流先	1か月の平均訪問回数
2022	15	9	25
2023	18	10	50
2024	25	11	60
2025	25	10	83
2026	27（36）	8	74

新規施設の内訳　　新規2施設（ポート金が谷・清瀬子どもの家） ※定期訪問、新規9施設（地方7・関東2）※毎期訪問

継続して関わってきた施設のある地域

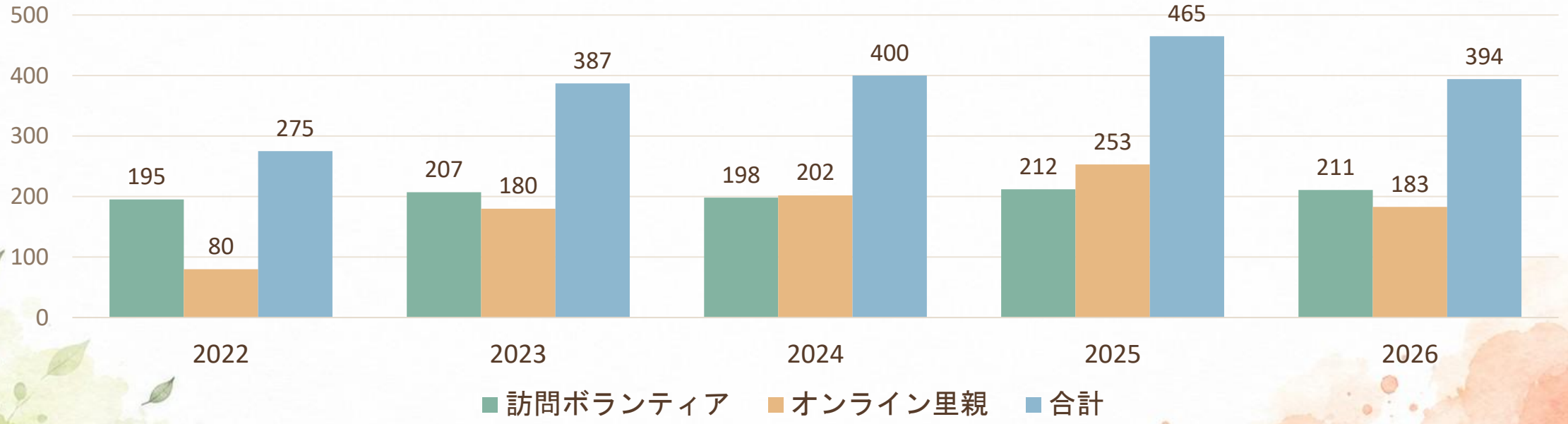
北海道・東北	関東・甲信越	東海・近畿	中国・四国・九州・沖縄
福島県	千葉県 東京都 神奈川県 群馬県 新潟県 長野県	静岡県 岐阜県 愛知県 滋賀県 三重県 大阪府 奈良県 和歌山県 兵庫県 京都府	愛媛県 山口県 福岡県 長崎県 鹿児島県 沖縄県

継続した支援実績のある都道府県。施設数を示す一覧ではありません。

ボランティアの推移

394名

2026年の在籍人数（実活動人数）



※2026年度より里親人数は累計ではなく実活動者数に変更しています。

支部ごとのボランティアクルー

56名

東京支部

95名

大阪支部

60名

オンライン支部

183名

オンライン里親

卒園後の支援



オンライン里親　みらいこども財団の奨学金制度

第12期に支援した学生

25名

第12期に支援を開始した学生　9名
2026年3月の卒業生　6名

累計

56名

奨学金支給金額の推移

年・期	奨学金支給金額（千円）
2022（第8期）	6,220
2023（第9期）	9,159
2024（第10期）	9,569
2025（第11期）	10,608
2026（第12期）	11,569

つなぐプロジェクト　訪問ボランティアによる伴走支援

第12期に支援した若者

8名

数年間継続して施設を訪問し、子どもたちと信頼関係をつくることで、卒園後もサポートすることができました。

累計

11名

オンライン里親での支援学生を除きます。

寄付金



支援者数と寄付金額の推移

年・期	寄付金額（千円）	毎月会員数
2021（第7期）	23,013	92
2022（第8期）	52,789	151
2023（第9期）	66,014	199
2024（第10期）	66,891	210
2025（第11期）	101,485	275
2026（第12期）	94,092	276

寄付金額の前年度比較

94,092千円

寄付金額の昨年度実績対比92%

設立以来初めて昨年度実績を下回りました。

ボランティア育成

勉強会の実施
ボランティア向けに毎月外部から講師を招待し、スキル向上に取り組みました。

リーダー研修・ボランティア研修の実施
活動の高次化を目的に、新たにリーダー向けの研修を行いました。

全支部合同ミーティングの実施
連携強化を目的に、各支部で行っていたミーティングを毎月合同で開催しました。

児童養護施設との関係づくり

児童養護施設の職員向け交流会の実施
- AI勉強会
- 里親についての意見交換会
- 退所後支援についての意見交換会

オンライン里親奨学金制度の周知活動

企業との連携活動

企業従業員向けセミナーの実施

企業向け活動報告活動の実施

児童養護施設で企業との合同イベントの実施
（ファーストリテイリング様、ニューバランスジャパン様、
ウォルトディズニージャパン様、KITH OSAKA様、ほか）

活動のトピックス



ユニクロ・GUイベント

株式会社ファーストリテイリング様

児童養護施設内に仮設のユニクロをオープンし、ボランティアと従業員が接客して、子どもたちに洋服を直接手渡すイベントを行いました。



ユニクロ・GUイベントの開催施設

開催月	施設	所在地
2025年9月	石神井学園	東京都
2026年1月	聖ヨハネ学園	大阪府
1月	山口育児院	山口県
2月	東京家庭学校	東京都
2月	石嶺児童園	沖縄県
2月	泉ヶ丘学院	大阪府
8月	白河学園	福島県
8月	清心寮	大阪府

ニューバランス ジャパン様とのイベント

株式会社ニューバランス ジャパン様

子どもたちが新しい靴を提案・発表し、ボランティアが洋服や靴を手渡しでプレゼントするイベント。

9月　あすなろ学園（石川県）20名
2月　聖友学園（東京都）40名
　　美さと児童園（沖縄県）35名
8月　クローバーライト・美桜の杜（愛知県）50名



丸亀製麺のキッチンカーイベント

株式会社トリドールホールディングス様

丸亀製麺のキッチンカーで、ボランティア・従業員と子どもたちが作りたてのうどんを食べるイベント。

神奈川県・子どもの園
参加者25名



日本生命様のオンライン里親プロジェクト

日本生命保険相互会社様

従業員7名が参加し、施設を卒園して大学に通う
水野由香さん（21歳）を現在まで3年間支援しています。



ウォルトディズニージャパン様との児童養護施設訪問

ウォルトディズニージャパンの従業員の
皆様と児童養護施設でディズニーのコンテンツを
活用したワークショップを行いました。



日本財団様主催のボランティアEXPOに出店



みらい基地プロジェクトの歩み
子ども食堂の運営



開催回数：7回（10/18・11/29・1/10・5/24・6/21・7/18・8/15）
来場者数：約140名
一般ボランティア：10名
児童養護施設：1施設
収支：収入／￥71,676・支出／￥200,521
実施内容：カレーライスの提供(こども食堂)、地域の清掃活動、バルーンアート体験、絵本作り

成果
　職業体験プログラムとして児童養護施設のお子さんが参加できた
　地域の子育て支援センターとの連携ができ、子育て世帯の来場者が伸びた
課題
　カレーライスを食べる場所から社会課題を解決する場所への動線をつくることができなかった
　ボランティアクルーの参加者が増えなかった

教育プロジェクト



教育PJ活動報告
・支援対象：計9名（小学生1名、中学生3名、高校生5名）
・支援内容：学校の学習フォロー、定期テスト対策、受験対策、生活・進路相談（学校生活・進路希望・SNSリテラシー等）
・支援頻度：月2～4回（個別対応）
・成果：
- 対象者との信頼関係を構築し、定性的・定量的な成長を促進。
- 高校受験生5名の学習に伴走し、全員が第一志望校に合格。
・課題：周知不足による新規支援ニーズ開拓の難航

ただいまプロジェクト　地方への継続訪問

長崎県、石川県、愛知県、沖縄県の施設に加え、
沖縄県（＋1施設）、山口県、福島県の施設にも新しく訪問しました。



大学との協業



大学との協業

大阪公立大学様
　学内でボランティア説明会を開催

関西大学様
　講義「子どもの貧困と虐待」
　西成スタディツアーを開催

摂南大学
　半年間のフィールドワーク授業開催



施設への物品支援



施設への物品支援

345施設

ご協力企業（五十音順）	物品	施設数
グンゼ株式会社様	下着	2
株式会社ニューバランス ジャパン様	衣料品	5
株式会社ファーストリテイリング様	衣料品	318（延べ457）
フィスカース・ジャパン株式会社様	食器・雑貨	20

企業との連携



企業従業員様とのボランティア活動

施設でのボランティア活動（訪問・オンラインを含む）
ファーストリテイリング様、LSEG様、豊田自動織機様、ニューバランス ジャパン様、
ウォルトディズニージャパン様、日本生命保険相互会社様、ほか

施設見学
トヨタ自動車株式会社様

オンライン里親
日本生命保険相互会社様

一般向け周知活動



活動を知っていただくために

広報活動　児童虐待の現状を多くの人につたえる活動

オンラインセミナー　（12月を除く毎月　計11回）
ボランティア説明会　（毎月3回以上開催）
企業向けセミナー　（東京バリアフリーマインドロータリークラブ様）
オンライン里親説明会　（毎月2回以上開催）
日本財団主催・ボランティアEXPO　東京・大阪参加

第13期 活動計画



新たな児童養護施設との出会い

6施設

新規の支援先施設

卒園後の伴走支援を広げる

つなぐプロジェクト

7人

新たに支援する子ども

オンライン里親の支援を広げる

オンライン里親プロジェクト

13人

新規支援学生

新たなボランティア仲間を迎える

60名

新規ボランティアクルー

活動を支える本部体制

10名

従業員体制・長期計画

寄付金・事業収益の目標

1億1400万円

寄付金・事業収益目標

重点施策

重点施策

ここ数年で急速に進んでいる
児童養護施設の変化にともない
真に必要とされる支援活動を行うために
新たな施策を計画します。

児童養護施設向け

施設の小規模化、卒園後のアフターケアに対応できるような新しい支援プログラムの開発

ボランティアクルー向け

ボランティアクルーが自ら成長を感じられる。
ボランティアクルーがやりがいを感じることのできる
育成プログラムの開発

重点施策

これらの施策を行うことで
中長期的に、児童養護施設の支援先の増加と
ボランティアクルーの増加につなげ
全国の児童養護施設に地域住民が支援するしくみ
つくりにつなげます

第13期の活動方針

一人でも多くの子どもの支援
優しいボランティア仲間を増やすこと

第13期の活動方針

新たな支援先施設の開拓

みらいこども財団のミッションである
優しい社会を作るために
児童養護施設、施設に暮らす子どもたちを
1人でも多く支援するための
新たに支援させていただける施設開拓を重点目標とします。

事業ごとの担当体制

事業・支部	主担当	副担当・担当
ボランティア事業　大阪支部・オンライン支部	河野	松村・美野
東京支部	松村	河野
オンライン里親事業	谷山	松村・河野
ドネーション事業	大谷	美野

各施設グループの担当は従来どおり、谷山・松村・河野。

団体概要



団体概要

一般財団法人みらいこども財団

https://miraikyousou.com/　　info@miraikyousou.com

大阪拠点
大阪府大阪市中央区内本町2−4−16
オフィスポート内本町1108号

東京拠点
東京都千代田区九段南1−5−6
りそな九段下ビル5F　KSフロア

理事
谷山昌栄（代表理事）
水口良一、日比野大輔、小野恒二

監事　岡田隆
評議員
松村康隆、角田祥子、南亜矢子

Instagram　X（旧Twitter）　Facebook

みらいこども財団の活動

児童養護施設の
子ども支援

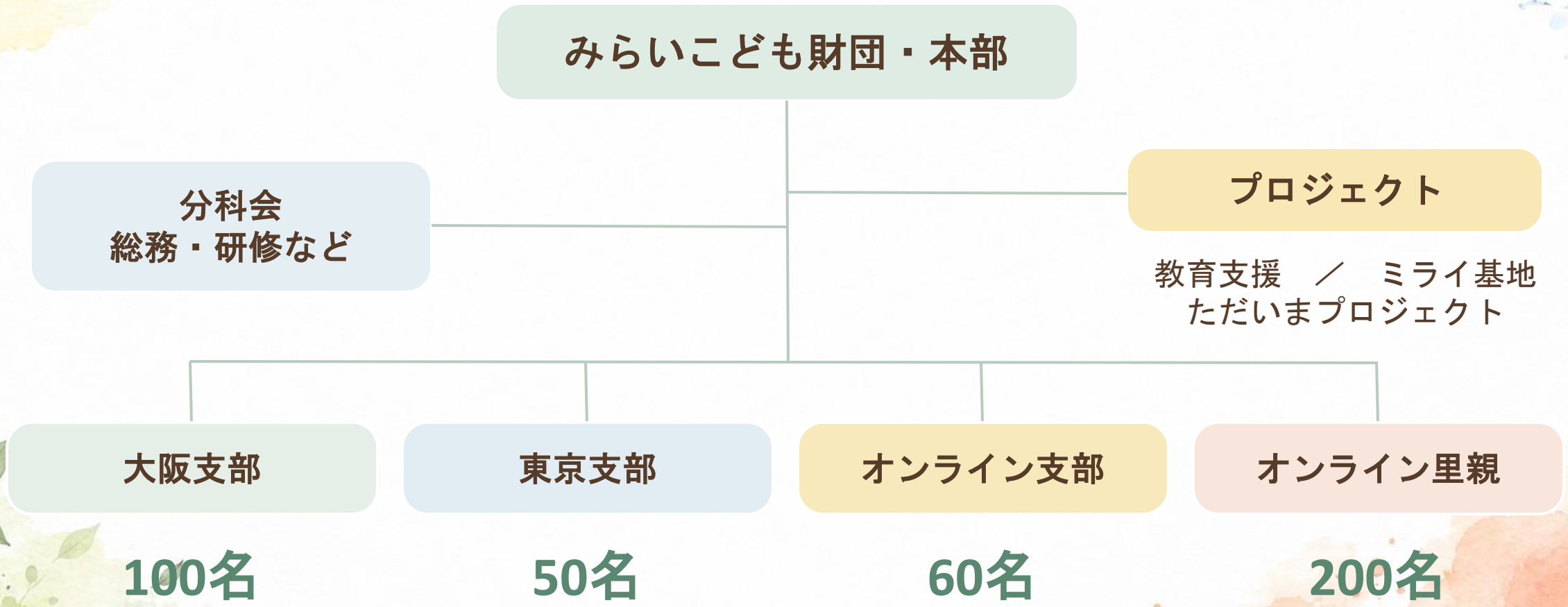
地域の
コミュニティ再生

優しい社会

企業の
社会貢献活動支援

誰でも参加できる
ボランティアの
プラットフォーム

組織図


みらいこども財団・本部
分科会
総務・研修など
プロジェクト
教育支援　／　ミライ基地
ただいまプロジェクト
大阪支部
東京支部
オンライン支部
オンライン里親
100名
50名
60名
200名

沿革

2010年　　代表谷山が経営する（株）シセイの従業員と街の清掃を始める
2011年　　（株）シセイの利益の一部を社会課題解決に使うことを決める
2012年　　ボランティアとして児童養護施設の子どもたちの支援を本格的に始める
2014年　　みらいこども財団を設立。ボランティアクルーを集める
2015年　　大阪にて児童養護施設に毎月訪問する活動を始める。ボランティア162名
2019年　　東京にて児童養護施設を訪問する活動を始める。ボランティア280名
2021年　　コロナ緊急支援プロジェクト・オンラインボランティア・
　　オンライン里親プロジェクトを始める
2023年　　「つなぐプロジェクト」公式LINE開始。ボランティア387名
日本の児童養護施設を支援する団体として支援先施設数、活動ボランティアクルー数最大のボランティア団体となる。



代表理事　谷山昌栄

多様なボランティア活動

子どもへの直接支援	施設・企業との連携	学び・社会への発信
児童養護施設訪問	職員向けサポート	スタディツアー
教育支援	企業合同イベント	一般向けセミナー
就業支援	企業のボランティア支援	卒園後の支援

施設への訪問から卒園後の伴走まで

遊び訪問

学習支援

就業支援

個別支援

卒園後の伴走

みらいこども財団の本部スタッフ



大谷　絢

おおたに あや



河野安理沙

かわの ありさ



田村彩水

たむら あやみ



松村明香

まつむら はるか



美野雄大

みの ゆうだい

私たちの強み



活動実績

活動	原資料の実績
支援ネットワーク	全国約600施設（ほぼすべて）
支援施設数／交流施設数	約300施設／約30施設
支援学生数（オンライン里親）	累計45名以上
ボランティア数	約400名
寄付物品総額	約1億円／年

私たちが積み重ねてきた強み

全国の児童養護施設とのネットワークがある
毎月70回以上施設にボランティア訪問している
施設にいる間から施設卒園後まで、一貫した支援をしている
400名以上のボランティアが実質活動している
10年以上のボランティアノウハウがある

寄付と事業収益で支える運営

国や行政からの助成金や補助金、受託事業などに一切頼らない運営を行っています。
そのため、オンライン里親など業界の常識ではできない支援活動や、行政の手の届かない活動をスピーディーに行うことができます。

誰もが参加できるボランティアのしくみ

児童養護施設の子どもたちへの支援とともに、一般市民がボランティアに参加しやすいしくみをつくっています。

原資料では「唯一の団体」「競合団体はほぼない」と位置づけ、日本国民1億3,000万人を対象としています。

潜在力と新規事業の可能性



新たな事業の可能性

ボランティア活動を企業における人材教育プログラムとして提供するコンサルティング事業
児童養護施設の子どもたちの就業先マッチング事業
オンライン里親の海外展開
地域の新たなコミュニティとしてみらい基地の全国展開など

社会貢献と企業価値のつながり

企業価値の向上

優秀な人材の採用

従業員の
ボランティア活動

社会貢献活動を
企業の成長へ

売上・利益の増加

従業員の成長

顧客満足度の向上

製品・サービスの
向上

全国にみらい基地をつくる

地域の人が、地域の子どもを支える社会づくり

そのために、全国にみらい基地をつくる

みらい基地の運営費の想定

費目	月額の想定
家賃・維持費	30万円
人件費（社員2名）	80万円
アルバイト（2名）	30万円
その他経費（通信・水光熱・消耗品）	30万円

月150〜200万円程度を想定

年2,400万円 × 全国100拠点 ＝ 年24億円

空き家の低価格提供や地域の寄付で維持費を下げる工夫。常駐社員が地域の募集・施設開拓を担当。

2050年の社会を考える

2050年の日本の人口は約1億人と予想され、現在より約2,000万人（約2割）の減少が見込まれています。

65歳以上の割合は28.6%から37.1%へ上昇。

高齢者1人を支える現役世代は、約2人から約1人になるという想定です。

地域の人がお互いに支え合う社会

高齢者が若者を頼らずに活き活きと生活できる社会のために誰かから必要とされる喜びを感じることができる。
日本社会がたとえ貧しくなったとしてもお互いが助け合いながら、生きていける社会
地域の子どもは誰のこどもであろうと地域みんなで支える社会

誰もが社会貢献できる場づくり

このような社会を2050年までに作るための
みらいこども財団の出した最適解が

だれもが社会貢献できる場をつくること
みんながボランティアとして活躍できる機会をつくること

児童養護施設の支援



なぜ、児童養護施設の子どもの支援が必要か

なぜ児童養護施設で暮らす
子どもたちの支援が必要なのか

虐待を経験した子どもへの支援

子どもの入所理由の9割が児童虐待である

虐待を経験した子どもの心の傷は、簡単に癒えるものではありません。

児童養護施設の支援だけでは、十分なサポートが難しいと考えています。

卒園後に直面する経済的・精神的な課題

児童養護施設を卒園した子どもたちの多くが経済的、精神的に苦しんでいます。

暮らしと就労の安定を支える

社会への適応や転職、収入の不安定さが重なることで、経済的な安定を得にくくなる場合があります。

本人の選択や尊厳を大切にしながら、生活と就労の両面から継続して支えることが必要です。

卒園後にも、継続した支援を

施設を卒園した後の公的サポートが不十分
施設職員の個人的な支援だけでは限界がある
毎年約1200名の子どもたちが施設を卒園している
まったなしの状況なのです

施設にいる間から卒園後まで続く支援

重要なことは、施設にいる間だけの支援ではなく
子どもたちが施設を卒園してからの支援が必要です。

そのために必要なのが
一気通貫したサポートのしくみ

みらいこども財団の一気通貫の支援

施設入所中	卒園後
施設ボランティア活動 （訪問・オンライン）	就業支援
学習・教育支援	みらい基地
信頼関係を育む継続的な関わり	オンライン里親

子どもの自立が社会の未来につながる

子どもたちが自分らしく生活し、働き、望む家庭や人とのつながりを育めるように支援します。

一人ひとりの自立を支えることが、社会全体の未来につながると考えています。

最後に



最後に

小さな活動から、全国のつながりへ

2014年

5人の会社で始まった、週1回の街のごみ拾い

2026年

ボランティア400名・訪問先30施設へ

子ども一人を支える大人が増えたら

もし、日本の企業のほとんどが
みらいこども財団のボランティアとして地域にある児童養護施設の
子どもたちに会いに行くことができたら

それだけで、子どもたちを取り巻く世界は変わります。
子ども一人に対して、10人、20人と支える大人ができるのです。

年に一度の関わりを、地域の力に

1人の従業員が年に1度、2時間施設に訪問して子どもと関わる。
地域の大人が近くの施設に年1回訪問して子どもと関わる。

そのような大人が大勢いれば、
こどもたちはそれだけで、前を向いて生きていけるはずです。

そんな簡単なことが実現できないはずはありません。

助け合うしくみを、日本から世界へ

日本でだれもがお互いあたりまえのように
助けあうことができるしくみができたなら

日本発のイノベーションとして、世界に発信することで
世界中の人々を優しく変えることができるでしょう。

サポーター・協賛企業様

2026年8月31日現在・五十音順

アサヒグループ食品株式会社様、株式会社adapt retailing様、株式会社イオンテクノセンター様、ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社様、エーザイ株式会社様、ＭＳ＆ＡＤゆにぞんスマイルクラブ様、LSEG様、株式会社encycle様、株式会社オウルズコンサルティンググループ様、大阪マラソンチャリティ事務局様、大塚商会ハートフル基金様、カラーズ株式会社様、株式会社クリーンテック様、グンゼ株式会社様、株式会社ケー・エス・ディー様、Goofice税理士法人様、ゴールドフラッグ株式会社様、サイボウズ株式会社様、株式会社サンゲツ様

三和ホールディングス株式会社様、SHIONOGI社会貢献支援会様、シスメックス株式会社様、株式会社ジャックス様、全栄企画株式会社、株式会社千趣会様、株式会社タイタン・アート様、デンソーグループはあとふる基金事務局様、株式会社豊田自動織機様、株式会社トリドールホールディングス様、2010オリーブの木様、公益財団法人日本財団様、日本生命保険相互会社様、公益財団法人日本ライオンズ様、株式会社ニューバランスジャパン様、税理士法人ネクサス様、株式会社阪急阪神カード様、株式会社ビューティーネイラー様、株式会社ファーストリテイリング様

フィスカースジャパン株式会社様、株式会社フィネス様、株式会社フォージョウハーフ様、ブックオフコーポレーション株式会社、株式会社プラット様、株式会社フレキシア様、ホームページテック株式会社様、三井住友海上労働組合様、三菱電機エンジニアリング株式会社様、宮坂産業株式会社様、株式会社宮田運輸様、明星工業株式会社様、利州株式会社様、株式会社Ridge-i様、レッキス工業株式会社様、株式会社Fast Fitness Japan様、株式会社ファンコミュニケーション様

自販機プロジェクト

株式会社ヒラタカグ様、山本通産株式会社様、株式会社三陽工業様、レッキス工業株式会社様、株式会社サンテック様

ありがとうございました

一般財団法人みらいこども財団

